

秋季講習会「技術士から見た世界の都市事情」 学校へ行こう！「旭川高専」・「北海学園大学」

秋季講習会報告 「技術士から見た世界の都市事情」

■はじめに

青年技術士交流委員会では、平成22年11月26日に海外で活躍された2名の講師を招き、「円高スペシャル：技術士よ世界を目指せ！」のサブタイトルを掲げ、参加者21名による秋季講習会を開催いたしました。

開催に先立ち、当委員会樋詰委員長より「国際的舞台で活躍されたお二人の活動内容をお聞きし、日本を取り巻く国際情勢を踏まえ、国際社会において技術士がどのような役割を担っているのかを皆さんに感じていただきたい」との挨拶の後、講習会が始まりました。



講師の松澤技術士(左)と石川技術士(右)

■「米国の都市事情／道路…ミネソタ州ほか」

講師：独立行政法人土木研究所 寒地土木研究所
雪氷チーム 上席研究員 松澤 勝 氏

松澤技術士は1996年～97年にアメリカ・ミネソタ州交通省道路局維持調査試験部門に当時の科学技術庁長期在外研究員として滞在されておりました。

た。同州は当時、冬期道路分野では最も先進的な取り組みが成されていた地区であったことから、「冬期道路管理の高度化技術に関する研究」を目的として、文献調査から始まり、関連施設やイベントの現地視察など、最新技術の吸収に励まれたとのことでした。

講話の中で印象的であったのが、最低限の除雪状況の道路標識「TRAVEL AT YOUR OWN RISK：あなたの自己責任で通行しなさい！」の説明でした。



ミニマムメンテナンス・ロードの道路標識

サービスレベルが低下する地方道路において、道路管理者がこの様な注意を促した上で通行を許可しているとのこと。著しく維持管理費が制約されるわが国においても、同様の標識が設置されるのも先の話ではない様に考えさせられました。

また、2008年に再びミネソタ州に訪れた時のスライドでは、ミネアポリスのミシシッピ川に架かるI-35 W 橋の落橋事故現場の視察時の説明がありました。驚きであったのは事故後わずか1年足らずで、新橋による開通を実現したとのことでした。

参加者とのいくつかの質疑の中、「何枚の写真を使用したのか？」との質問もあり、ダンボール2箱分の写真から、160枚以上のスライドを作成して頂いたエピソードを伺いました。技術の話題の他に、



2007年に落橋したミネソタ-35 Wの復旧状況



現地スタッフに技術指導中の石川技術士

ハロウィンやクリスマスといった人々の暮らしや文化についての話題も交えて講話していただき、あつという間の1時間を提供していただきました。

■「エジプトの都市事情／環境分野での技術協力」

講師：札幌市建設局 下水道施設部

創成川水処理センター 石川 郭遂 氏

石川技術士は2000年～01年に、当時のJICA(国際協力事業団)の長期専門家として、エジプト環境モニタリング研修センターのプロジェクト派遣のため、カイロ市で滞在勤務されておりました。

勤務先の環境庁は、カイロ市街から車で約1時間程度の南側に位置し、晴天時には観光地として有名な「ギザのピラミッド」を、職場から眺めることが出来たとのことでした。

勤務先では、環境分野での技術協力としてのプロジェクトに携わり、その目標は「カイロ中央センター及び地域支局が水・大気的一般環境、発生源モニタリング及び産業廃棄物のモニタリングを適切に実施できるようになる」という重要な職責であったそうです。

主に指導されたのは、「イオンクロマトグラフィーや原子吸光光度法などの水質分析方法をはじめ、廃液処理や実験室管理など」多岐にわたり、現地のエジプト人スタッフへの技術指導に励まれたとのことでした。

「現地スタッフに対し、水の中の物質を測定・分析して試験を終わらせるのではなく、解析数値が示す意味を理解させる指導を心がけた」と、当時の心

境もお聞きすることができました。

印象的だったのは、「水銀が出るはずがない試料で水銀が出てしまった」というお話です。他の試験で用いたスプーンをそのまま使用した事が原因だったそうですが、「実験」という行為の基本的な知識が少ない所から指導されていた様子がよく解りました。

エジプトでの生活については、イスラム教の「ラマダン(断食月)」のお話が興味深かったです。「ラマダン」は苦しい修行ではなく、日が沈んだあとの食事会はお祭りの様だと聞いて驚きました。

また、講話後の参加者との質疑では、現地スタッフへの指導と研修資料などの言語について、全て英語で行われていた事に触れ、母国語の専門書が充実している日本の環境をあらためて実感されたとのことでした。

■おわりに

今回の講習会では、アメリカ・エジプトと、それぞれの地で活躍された、二人の技術士の講話をお聞きすることができました。

技術的な内容に留まらず、その国での文化・風土の違いの中で順応していく貴重な体験談は、自己のフィールドを海外へ向けている後進の技術者にとって、有意義な時間であったことと思われました。

青年技術士交流委員会では、このような魅力ある会や勉強会など、これからも企画していきたいと考えております。

学校へ行こう！ H22 実施報告 「その1：まずは旭川高専です」

■実施内容

対象：旭川工業高等専門学校技術創造部技術職員
テーマ：技術士制度と技術士取得に向けた取組み
開催日時：H22.12.3（金） 10:00～12:00
参加者：高専技術職員10名、今野廣教授、富樫
巖教授（旭川高専）、丸池可記（技術士）、
朝日孝輔（技術士）、樋詰透、奈良照一、
山本太郎（青技交3名）

〈高専の研修での講義依頼が来ました〉

旭川高専の技術職員研修のなかで、技術士制度と技術士を取得するまでの勉強方法などを講義してほしいとの依頼が技術士会にあり、若手には若手技術者をということで青年技術士交流委員会（以下青技交）が協力することになりました。

〈一般の技術士から丸池氏と朝日氏に講義を依頼〉

依頼内容を詳しく聞くと、研修を受けるのが機械系・制御系の技術職員でしかも場所は旭川でした。青技交にはこの分野・地域の技術士がいないことから、講義する人探しから始まることとなり、過去の

研修会参加者から旭川在住の技術士である朝日孝輔氏（北海道地図株式会社）と、機械系の技術士である丸池可記氏（株式会社日進製作所）を技術士名簿から探し当てて依頼し、引き受けてもらうことになりました。

〈丸池氏と朝日氏の人柄あふれる講義〉

樋詰青技交委員長の挨拶、奈良同幹事長からの技術士制度の説明のあと、丸池氏と朝日氏の講義となりました。

丸池氏からは、日々の仕事である工場のクレーンや水門などの設計に携わる中で、まわりの設計屋さんとは違う武器を身につけようと思って技術士を目指したという動機や、技術士をとってからは難しいことにぶつかっても何とかできるという自信が身に付いたという実感のこもった話がありました。

朝日氏はご自身が旭川高専卒ということもあり（依頼したときは知らなかった！）、高専を卒業してから大学編入、就職、青年海外協力隊への参加、そしてその会社への再就職から技術士取得に至るまでのバラエティーに富んだ経歴を惜しげもなく披露して下さいました。人と交流しながら仕事するには肩書きも大事で、人に頼られるには自分が勉強することが大事だという朝日氏が示された教訓は、参加した我々青技交メンバーもただただうなずくばかり



丸池可記（よしのり）氏（機械部門：株式会社日進製作所）の



朝日孝輔氏(情報工学部門：北海道地図株式会社)の

でした。

〈フリーディスカッション〉

両氏ののあとはフリーディスカッションで、技術士制度や勉強方法などについて高専職員から質問を聞き、丸池・朝日両氏とともに参加した青技交メンバーも加わって回答しました。



フリーディスカッションで技術士に関する質問を受ける

フリーディスカッションでは、

- ・ 修習技術者としての部門と2次試験を受ける部門が違って良いのか？
- ・ 技術士の手当は会社によって違うのか？
- ・ 体験論文を書くときのポイントは？

のような質問に対して、「2次試験を受ける部門は1

次試験とは関係ないので得意な部門で受けられます」、「会社によって手当はいろいろで、支援のされ方も違います」「通常の仕事でも工夫したことをはっきり書いたら論文になります」などと答えながら疑問に対するやりとりをしました。

〈研修への参加を終えて〉

研修後に富樫教授より、中身が非常に濃く良い研修になりましたとの感想を頂きました。旭川高専とは、技術士会北海道支部が「相互協力協定」を結んでいることもあり、今後も若手技術者の育成や技術士の認知度向上のために連携を図っていければと考えています。

また、丸池氏からは「猛烈に勉強して技術士に合格したあと燃え尽きたような状態になっていました。高専でのという良い機会をもらって、これからも頑張ろうという気が湧いてきました」という感想をもらい、朝日氏からは「自分のが少しでも母校の役に立てたら良いですね」という言葉をもらいました。我々中堅技術者がどンドン世の中に出て技術者としての仕事の面白さを伝えていけるような技術士会としての活動をこれからも進めていきたいと考えています。

(文責：青年技術士交流委員会幹事 山本太郎)

学校へ行こう！ H22 実施報告 「その2：北海学園大にも行きました」

■実施内容

対象：北海学園大学工学部社会環境工学科

テーマ：「技術者・技術士」の仕事を見てみよう！

開催日時：H22.12.8（水） 16:00～17:30

参加者：3・4年生の学生22名、嵯峨教授、許士教授、山本准教授（北海学園大）、東本靖史（技術士）、樋詰透、大槻政哉、奈良照一、山本太郎、川村力、永田泰浩、木本光則、永井登茂美（青技交8名）

〈北海学園大で第3弾！〉

旭川高専に引き続き実施し、北海学園大での開催は3回目となります。2回目に引き続き、学生さんが眠くならず、理解しやすい内容となるよう、今年も者の皆さんが工夫を凝らしたプレゼンで、技術士について、また、技術士・技術者の仕事について楽しいを行いました。

〈やるからにはプロフェッショナル！ by ゴルゴ〉

はじめに、今回のコーディネーター役である永田技術士より、技術士について説明がありました。技術士は「科学技術のプロフェッショナル by ゴルゴ」というインパクトあるフレーズに始まり、技術士取得のメリットやどのようにしたら技術士になれるかなど、永田技術士の明るいキャラクターを活かしたテンポの良い説明となりました。 ゴルゴって？



技術士について説明する永田技術士

〈技術士は公共事業のお医者さん〉

次に、東本技術士より、公共交通に関わる技術士の仕事についてがありました。学生の皆さんにも身近な札幌市のバス交通の路線を維持するために、新たな基準づくりなどの技術的な検討を行ったことなど、技術士としてのスマートな面だけではなく、資格を取得した後の努力の重要さや苦勞についても熱心に話してくれました。東本技術士は、北海学園大の卒業生であり、後輩に対して熱のこもったとなりました。



後輩に対して熱心に語る東本技術士

〈技術士・技術者こそ夢を見ている！ by999〉

最後に川村技術士から、鉄道に関わる技術士の仕事についてがありました。鉄道高架事業の際の「日本初」を目指した技術的検討と創意工夫、話題の北海道新幹線に関する技術的検討についての話があり、最後にメッセージとして「技術士・技術者こそ夢を見ている！」と熱く語り、学生の目が一気に開きました！



熱く語る川村技術士

〈たくさんの質問をいただきました〉

終了後、参加した他の技術士も含め、学生さんから自由に質問を受け付けました。

「仕事のやりがいや満足を感じることは何か」「技術士になるためにどのくらい、どんな勉強をしたか」「働きすぎで家庭は大丈夫ですか」「女性も技術者として活躍できるか」などの質問に対し、講師以外の幹事も交えて回答していきました。永田技術士のフランクなコーディネートにより、学生の皆さんもリラックスした雰囲気でのコミュニケーションがとれたと思います。



質問に答える東本技術士

〈学生の皆さんの感想は?〉

終了後に感想を書いてもらいました。

「技術士のことがよくわかった」「興味がなかったが、技術士を目指したいと思った」「就職に対する考え方が変わった」「土木の仕事に希望を持てた」「楽しかった」など、大変好評を得ており、活動の目的である技術者・技術士に対する理解を深め、将来の技術士輩出のために寄与することについて、成果があったのではないかと思います。



真剣に話を聞く学生の皆さん

〈会を終えて〉

嵯峨教授、山本准教授と技術士会メンバーとで懇談し、以下のような話をもらいました。

- ・今日来ていない学生にも聴かせてあげたかった。
- ・うまくいった話ばかりでなく、失敗した話もしてもらえれば、さらにいいですね。
- ・技術士制度にかかわる話は、授業ではなかなか学生には伝えられないので、とても助かります。
- ・社会に出たら厳しいという話もどんどんして下さい。技術士から言われると学生もそうかと思うので。

2回目に引き続き、内容にも工夫や改善がみられ、レベルアップしています。青技交では、おまけ今後もこの活動を続けて行きたいと考えています。

(文責：青年技術士交流委員会幹事

永井登茂美)



妊婦も
参加しました

EPO (エンジニア・パーク・オンライン)のご案内

青年技術士交流委員会では、社団法人日本技術士会会員及び技術士補を含む準会員、北海道支部賛助会員全員を対象として、メーリングリスト“エンジニア・パーク・オンライン(EPO:エポ)”を1998年(平成10年)12月1日より開設しています。2009年9月現在、約600名の方が加入されています。

EPOに登録を希望される方は「①ご自身の氏名と所属」、そして「②社団法人日本技術士会の会員、準会員、北海道支部賛助会員」であること、「③メーリングリスト登録希望」の旨を本文に書き、以下のメールアドレスまでeメールを送ってください。

メーリングリストとは、メールに登録会員全員に同報配信する仕組みで、特定のことがらに詳しい人を探したり、講習会や行事等の案内、会員相互の様々な情報交換に重宝なものです。メーリングリストEPOに関するお問い合わせについても、次のメールアドレスまでご連絡ください。

メーリングリスト申込用メールアドレス

seigikyo@ipej-hokkaido.jp

※テキスト形式のみで受け付けています。